

CITATION: Smith EJ, Lui S, Terplan M. Pharmacologic Interventions for Pregnant Women Enrolled in Alcohol Treatment *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 3. Art. No.: CD007361. DOI: 10.1002/14651858.CD007361.pub2.
CRG名: Cochrane Drugs and Alcohol Group.

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 25 March 1999
Clib issue No.; N/U: 2009 Issue 3; Update

アブストラクト

背景: 妊娠中の過剰なアルコール摂取は、妊婦や新生児に有害な作用を及ぼす。したがって、妊婦の人生におけるこの大切な時期に有効な介入を考案、検討することが重要である。著者らの知る限り、本集団を対象としたランダム化比較試験(RCT)のシステマティック・レビューはみられない。

目的: 出産および新生児アウトカム、母親の禁酒、ならびに治療継続性を改善するためのアルコール治療プログラムに登録された妊婦を対象に薬理的介入の有効性を検討する。

検索戦略: Cochrane Drugs and Alcohol Group's Trial Register(2008年8月)、MEDLINE(1950年1月~2008年6月)、EMBASE(1974年1月~2008年8月)、CINAHL(1982年1月~2008年6月)、PsycInfo(1806年1月~2008年6月)および論文の文献一覧を検索した。

選択基準: 薬理的介入と、他の薬理的治療単独または心理社会的治療、プラセボ、非介入、心理社会的介入のいずれかを併用した他の薬理的治療を比較したランダム化または準ランダム化研究の組入れを試みた。

データ収集と分析: 本レビューでは、2名のレビュー著者が別々に試験の適格性を評価した。組入れた試験は、標準化されたデータ抽出と質評価用紙を用いて評価するものとした。適格な試験は同定されなかった。

主な結果: 検索戦略により793件の論文が同定された。全文レビューとの関連性があると思われた論文は23件で、その後追加された論文10件は参考文献のハンドサーチで同定し、計33件とした。全文レビュー後、選択基準を満たしていた論文はなかった。そのため、データ抽出と方法論的質の評価は実施できなかった。

レビューアの結論: 本レビューに際した疑問に対する回答は、テーマとの関連性があるとみられるランダム化比較試験がなかったため、得られていない。アルコール治療プログラムに登録された妊婦を対象とした薬理的介入の有効性を検討するために質の高い研究を行う必要がある。

平易な要約(Plain language summary)

アルコール治療プログラムに登録された妊婦に対する薬理的介入

妊娠中のアルコール摂取はよくみられます。しかし、安全なアルコール摂取レベルは分かっておらず、低濃度のアルコールが胎児に及ぼす有害作用に関する決定的なエビデンスはありません。妊娠中は、2単位/日を超える飲酒、または1回につき4単位を超える飲酒は、自然流産のリスクが高まり、発育が遅延し、児の精神発達が遅れるおそれがあります。胎児アルコール症候群は、思春期および成人期に神経学的異常、精神遅滞、様々な程度の心理社会的問題および行動障害、ならびに特徴的な異形顔貌として現れます。集団によっては、妊娠中のアルコール摂取が、小児虐待およびネグレクトまたは母子愛着および反応性の減少につながります。アルコールを摂取

する妊婦の方が、産後うつ病になる可能性が高くなる。教育や内科的治療を受けるために保健医療施設を受診する可能性が低下します。

アルコールの問題を抱える妊娠中や分娩後の女性を支援するための具体的な介入を導入する必要があります。医薬品は、解毒中に影響を低減することによってアルコール治療を補助する目的で投与されます。これらの医薬品にはベンゾジアゼピン系、フェノチアジン系およびクロルメチアゾールなどがあり、不安や不眠症を軽減する目的で用いられます。また、離脱後に抗うつ薬が投与される場合もあります。ジスルフィラム、ナルトレキソンおよびアカンプロセートは、アルコールへの渴望を抑え、禁酒を持続させる目的で、より重度の患者に用いられます。レビュー著者は、アルコール治療プログラムに登録された妊婦を対象に、妊産婦、出産および児のアウトカムを改善するための薬物的介入の有効性を検討したランダム化比較試験(RCT)を同定(特定)することができませんでした。

試験を除外した主な理由は研究デザインでしたが、対照群が設置されていない試験や、出生時体重、身長または頭囲などの新生児アウトカムのみ注目した試験がみられました。妊娠中のアルコール摂取に付きまとう偏見を考えると、一般化するのに有害な影響が及ぶアウトカム試験の組み入れはなお困難と考えられます。質の高いエビデンスが得られれば、医師や妊婦の分娩前意思決定の一助となるのは明らかです。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2015年 1月 8日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。